

# 2018 年度事業報告

自 2018 年 4 月 1 日  
至 2019 年 3 月 31 日

当協会は、昨年 5 月 9 日(木)開催の第 6 回定時総会において、施工管理事業、品質管理事業、広報事業を骨格とする 2018 年度の事業計画と約 7,000 万円(断熱特別会計を含む)の予算を決定し、これに基づき以下の事業を実施したので報告する。

本年度は、木造建築物(集成材)における折板接合部の検討、平板ぶき屋根の耐火構造における垂木の耐火被覆に関する検討、新しい技術図書の準備作業などを行ったほか、新たな屋根 30 分耐火構造認定取得に向けた作業を進めた。引き続き金属屋根・外壁に関連する各種技術情報を積極的に公開した。

## 1. 組織運営

### (1) 会議

事業計画の円滑な執行を図るため、次の会議並びに委員会を運営した。

表 1 会議・委員会

会議・委員会	所管事項
正副会長会議	事業及び予算執行に関する事項
審査委員会	技術審査の問題作成、合否の判定に関する事項
技術委員会	技術の向上及び技術サ - ビスに関する事項
広報委員会	広報及び機関誌・ホームページに関する事項

表 2 会議・委員会開催経過

総 会	第 6 回:5 月 9 日
理 事 会	第 14 回・第 15 回:5 月 9 日、第 16 回:1 月 16 日
賀 詞 交 歓 会	1 月 16 日
正 副 会 長 会 議	4 月 16 日、7 月 9 日、10 月 15 日、12 月 17 日 3 月 14 日
審 査 委 員 会	12 月 19 日
技 術 委 員 会	4 月 3 日、5 月 21 日、6 月 25 日、7 月 18 日、8 月 21 日、9 月 18 日 10 月 29 日、 11 月 26 日、11 月 30 日～31 日、12 月 19 日 1 月 28 日 2 月 18 日 3 月 18 日
広 報 委 員 会	4 月 5 日、5 月 11 日、6 月 8 日、7 月 4 日、9 月 11 日、10 月 4 日、11 月 5 日 12 月 4 日 1 月 9 日 2 月 4 日 3 月 6 日

## (2) 会員の異動状況

2019年3月末における会員の異動状況は表3の通りである。

表3 会員移動状況

会員区分	期首	増加数	減少数	3月末
正会員	253	2	9	246
特別正会員	106		2	104
特別会員	10			10
賛助会員	34	1	1	34
合計	403	3	12	394

## (3) 役員改選

第6回定時総会で任期満了に伴う役員改選を行った。理事の退任・新任は表4の通り。監事は全員留任。

表4 退任・新任 理事

	退任		新任	
理事	海老原 弘 士	(有)海老原板金工業所	原 耕 三	三和建材工業(株)
	大 島 聡	北長金日米建材(株)	堀 籠 進	淀鋼商事(株)
	片 山 隆 之	片山鉄建(株)	宮 原 剛	北長金日米建材(株)
	黒 石 厚	NSSB 奥平スチール(株)	目 片 浩	片山鉄建(株)
	杉 田 俊 也	淀鋼商事(株)	森 山 浩	NST 奥平(株)

## (4) 公益目的支出計画の実施完了について

当協会は、公益法人制度改革に伴い、理事会、総会決議を経て一般社団法人への移行を申請し、内閣府公益認定等委員会の認可を受け、2013(H25)年3月21日に一般社団法人へ移行した。一般社団法人移行時の公益目的財産額は、公益目的事業の支出によって"零"とすることになっており、当法人は4ヶ年で"零"となる「公益目的支出計画」を提出した。

2016(H28)年10月7日付で「公益目的支出計画変更認可申請書」を提出、公益目的支出計画の完了予定日の1年延長を申請し、同年11月25日付で認可を受けた。

計画通り「公益目的支出計画」は、5ヶ年にて完了したので、2018(H30)年7月11日に「公益目的実施計画実施完了確認申請書」を提出、審査を受け、同年11月15日付で内閣府公益認定等委員会より「公益目的支出計画の実施完了の確認書」(府益担第1442号)を受領した。

これにより一般社団法人移行に関する手続きはすべて完了した。

## 2. 安全対策事業

### (1) 安全対策

機関誌に以下の安全関連記事を掲載した。

\*7・8月号:STOP!熱中症 クールワークキャンペーン

\*9月号:安全帯が「墜落制止用器具」に変わります

### 3. 調査研究事業

#### (1) 社会保険加入促進に関する周知活動の実施

社会保険の加入促進に向け、会員企業等からの問い合わせに対応した。

#### (2) 若年労働者育成に関する調査等

中央職業能力開発協会への中央技能検定委員の派遣

建築板金(内外装板金作業)の中央技能検定員として宮腰技術委員長、工藤技術主幹を派遣した。

#### (3) 内外装板金・外国人研修生制度への対応

厚生労働省における外国人研修生の受け入れの前提となる「公的技能評価制度」の創設について協力し、2017年度に技能実習2号(在留年数3年)移行対象職種の建築板金に内外装板金作業が追加された。今年度は技能実習3号(在留年数5年)の整備について協力した。

#### (4) 特定技能外国人の受入れについて

外国人労働者の受入れ制度については、2019年4月1日からスタートしているが、本件については(一社)日本建築板金協会と共同して対応している。

##### 特定技能外国人に求める技能水準

###### # 特定技能1号

技能水準 技能検定3級相当の実技及び学科試験

日本語水準 日本語検定N4相当

###### # 特定技能2号

技能検定1級相当の技能レベル+班長等の現場管理経験

##### 受入れ対象職種の選定基準

# 生産性往向上や国内人材確保の取り組みを行ってもなお人手不足であること 有効求人倍率等で証明

# 外国人材の受入れについて、関係団体において賛意が得られていること 国交省への申し出

# 関係団体において海外で行う試験を作成・実施できること 複数団体合同可

##### 受入れに関する対応

# 受入れ(試験実施)職種の分類名:建築板金

# 関連する技能検定(職種名及び作業名):建築板金職種(内外装板金作業)

# 試験実施(受入開始)年度:2020年度以降/技能実習2号が特定技能1号の在留資格を得るとされる年度から。

#### (5) 海外情勢の調査

2018年度の海外視察団の派遣は中止し、2019年11月4日~8日にパリで開催されるBATIMATの視察を企画する。

#### (6) 中国防災鉄鋼技術普及展開事業への協力

中国の粗鋼生産能力削減にたいする支援事業(鉄鋼業の構造改革、鋼構造普及/経済産業省・金属課、海外産業人材育成協会(AOTS)、日本鋼構造協会(JSSC))の一環として金属屋根・外壁材に関する講

座を担当した。講師は宮腰技術委員長が担当した。

\*9月12日(水)、9:30~12:30@AOTS:政府・国営企業の発注者

\*10月22日(月)9:30~12:30@AOTS:民間発注者

\*1月18日(金)広東省深圳市(140名)

\*1月20日(日)四川省成都市(160名)

また、中国鋼構造協会(CSCS)関係者と以下の会合をもった。

\*9月3日(月)、14:00~16:30@JSSC、CSCS 関係者と意見交換、宮腰委員長、濱野、工藤

\*10月11日(木)、9:30~12:00@JSSC 北京精華大学・石教授と意見交換、宮腰委員長、濱野、工藤  
本事業と関連して、CSCSでは当協会が発行したSSR2007、SSW2011、MSRW2014、LLM2014の4冊について翻訳・出版し、会員に無償配布する計画を進めており、翻訳権に関する契約を当協会、JSSC、CSCSの三者で締結した。

#### (7) 金属屋根等に関する統計調査の実施

2016年度における金属屋根、粘土瓦、厚形スレート、化粧スレート、波形スレートの出荷量、並びに金属屋根・外壁素材の出荷量に関する調査結果をホームページで公開した。

表5 各種屋根材の出荷動向・面積比較(単位:千㎡)

年度	金属	セメント瓦	波形スレート	粘土瓦	化粧スレート	合計	金属比率
2000	72,603	9,713	10,200	76,218	31,234	199,968	36.3%
2001	71,261	8,317	8,230	72,046	28,161	188,015	37.9%
2002	66,920	7,562	7,088	69,844	24,110	175,524	38.1%
2003	67,125	7,530	6,718	68,280	25,748	175,401	38.3%
2004	70,142	4,999	7,332	58,892	22,183	163,548	42.9%
2005	82,881	7,149	5,646	57,353	22,711	175,740	47.2%
2006	83,573	6,395	4,698	55,521	20,465	170,652	49.0%
2007	69,836	4,136	3,890	44,372	18,788	141,022	49.5%
2008	54,661	1,941	3,061	38,957	17,078	115,698	47.2%
2009	44,687	2,148	2,176	38,186	15,525	102,722	43.5%
2010	48,663	2,137	2,281	32,588	16,202	101,871	47.8%
2011	51,774	956	2,252	34,123	16,713	105,818	48.9%
2012	55,135	1,125	2,136	33,572	16,975	108,943	50.6%
2013	57,918	1,039	1,716	31,197	17,582	109,452	52.9%
2014	64,009	734	1,586	28,413	16,799	111,541	57.4%
2015	55,468	548	1,684	24,813	15,844	98,357	56.4%
2016	66,309	607	1,506	22,528	16,197	107,147	61.9%

\*金属屋根材、波形スレート、粘土瓦の面積は換算値。換算値は当協会の推計。

#### 4. 審査事業

##### (1) 金属屋根工事技士技術審査

2018年11月10日(土)に札幌、仙台、東京、大阪、福岡の5会場で実施した。合否の判定は12月開催の審査委員会で行った。

表6 金属屋根工事技士技術審査

地区	会場	申込者数	受験者数	合格者数・率(%)	
				合格者数	率(%)
札幌	自治労会館	4	4	4	100.0
仙台	建設会館	7	7	6	85.7
東京	鉄鋼会館	29	29	24	82.8
大阪	科学技術センター	5	5	5	100.0
福岡	朝日ビル	9	9	6	66.7
合計		54	54	45	83.3

## 5. 施工管理事業

### (1) 金属屋根工事技士「更新講習会」の実施

金属屋根工事技士の資格更新を目的とした講習会を6会場で実施した。講習会は、これまで通り「金属屋根講座」として資格者以外にも公開した。講師は技術委員が担当。

講習は、『初めて学ぶ もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017』を中心に行い、以下の事項についても説明した

木造建築物における折板接合部の確認試験 一文字ぶき屋根の耐風圧試験  
 新しい積雪荷重の算定方法 角波の送風散水試験

表7 金属屋根工事技士更新講習会 実施経過

開催日	地区・会場	対象	申込			出席			講師	
			更新	講座	小計	更新	講座	小計		
2月2日(土)	札幌・自治労会館	22	20	5	25	20	5	25	湯本	風間
2月16日(土)	仙台・宮城県建設会館	21	13	7	20	11	7	18	宮腰	風間
2月23日(土)	東京・家の光会館	88	87	32	119	78	31	109	宮腰	湯本
3月2日(土)	名古屋・ウインクあいち	23	10	10	20	8	10	18	名和手	廣瀬
3月9日(土)	大阪・科学技術センター	77	49	26	75	48	26	74	大室	工藤
3月16日(土)	福岡・朝日ビルディング	26	36	18	54	31	18	49	名和手	今
		257	215	98	313	196	97	293		

## 6. 品質管理事業

### (1) 木質系部材と鋼板製外装材との接合部の実況に関する調査業務

国土交通省国土技術政策総合研究所が実施するプロジェクト研究「新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発」(2017(H29)年度～2021(H33)年度)の一環として今年度、同研究所より「木質系部材と鋼板製外装材との接合部の実況に関する調査業務」を受託し、以下の調査を実施した。

集成材による屋根架構と折板屋根材との接合部に関する技術資料の収集

下記の項目について、技術資料を収集する。体育館、生産施設などの比較的大規模な屋根架構を想定した技術資料を対象にする。

・タイトフレーム接合部の引張試験、許容耐力の評価に関するデータ

- ・熱伸縮の影響を考慮したタイトフレーム接合部の繰り返し試験に関するデータ
- ・屋根端部等の納まりに関するディテール図  
 【タイトフレームとの木質梁の接合部試験(建材試験センター)】
  - \* 予備試験: 8月15日、ねじ留め付け位置の確認
  - \* 水平繰返し試験: 10月19日
  - \* 引張試験: 10月24日

木質系建築物に鋼板製外装材を設計・施工する際の技術的な課題の収集  
 設計・施工の現況を踏まえて、下記の項目に関して挙げられた課題をまとめる。低層から中層規模の木質系建築物での屋根と壁を想定した課題を対象にする。

- ・構造耐力上の現況を踏まえた課題
- ・防耐火上の現況を踏まえた課題
- ・雨仕舞や耐久性上の現況を踏まえた課題

結果については、12月21日付で「木質系部材と鋼板製外装材との接合部の実況に関する調査業務報告書」を同研究所に提出したほか、機関誌2月号に「中・大規模木造建築物への折板の適用「集成材梁+タイトフレーム」強度試験報告」を、3月号に「木質下地(集成材)折板屋根のディテール」をそれぞれ公表した。

(2) 『初めて学ぶ もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017』、『鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSR2014』、『鋼板製外壁構法標準 SSW2011』並びに『鋼板製屋根構法標準 SSR2007』の普及

LLM への質問と回答、正誤表・第2版の発行

講習会等で寄せられた「LLM2017 への質問とその回答」と「正誤表」の第2版を機関誌、ホームページに掲載した。

(3) 計算ソフト『屋根を調べる 2019』の作成

『屋根を調べる 2019』を作成した。積雪荷重算定ソフトを積雪荷重の算定方法の変更にあわせて更新した。本計算ソフトには以下のものが含まれている。

風圧力算定ソフト 積雪荷重算定ソフト 屋根性能計算ソフト 工事管理報告書作成ソフト  
 風圧力関連規定解説書(PDF) 屋根ふき材の構造計算解説書(PDF)

屋根性能計算ソフトでは、以下の計算を行うことが出来る。

表8 屋根性能計算ソフト内容

耐風強度計算	耐積雪強度計算	性能確認計算
折板強度(連続梁)	折板強度(連続梁)	熱貫流率計算
折板強度(単純梁)	折板強度(単純梁)	断熱性能計算(日射吸収)
折板強度(軒先)	折板強度(軒先)	断熱性能計算(放射冷却)
接合部材・接合部耐風強度	接合部材積雪強度	結露計算
タイトフレーム溶接強度	雪止め金具取付間隔	室内温度上昇計算
パラペット下地強度	母屋・垂木強度	屋根材の熱伸縮量計算
雨とい取付金具強度	野地板強度	透過損失計算
母屋・垂木強度		騒音伝達計算

野地板強度 ファスナー取付強度 横葺き吊子の引抜強度 縦葺きの耐風強度(SSR07 ベース) 横葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		といの排水量計算 軒先流層高さ計算
--	--	----------------------

#### (4) 金属屋根に関する技術情報の提供

会員内外を含めて、金属屋根・外壁の設計・施工にかかわる問合せが増加していることなどに対応するため、機関誌並びにホームページに以下の事項を掲載した。

##### 機関誌公表分

- \* 防水材料による金属屋根改修
- \* 金属サイディング新築外壁施工マニュアル
- \* 「角波」の送風散水試験 試験結果報告
- \* LLM2017 への質問とその回答 Ver2
- \* 屋根耐火 30 分耐火構造認定
- \* 台風 21 号に伴う広域強風災害と金属屋根壁の耐風圧設計
- \* 平成 30 年台風 21 号に伴う強風による建築物等被害現地調査報告(速報)
- \* 耐火構造屋根における 鋼製小屋組の被覆に関する検討
- \* 中・大規模木造建築物への折板の適用 「集成材梁+ タイトフレーム」強度試験報告
- \* 木質下地( 集成材) 折板屋根のディテール

##### ホームページ公表分

- \* 積雪荷重の算定に関する「技術的助言」
- \* 金属サイディング新築外壁施工マニュアル
- \* 金属サイディングによるモルタル壁の重ね張り改修
- \* 金属サイディングを正しく取り扱うためには
- \* 伸銅品を学ぶ 銅から伸銅製品ができるまで(上)
- \* 伸銅品を学ぶ 銅から伸銅製品ができるまで(下)

#### (5) 『公共建築工事標準仕様書』・『建築工事監理指針』-31 年度版-改定への対応

国交省の『公共建築工事標準仕様書』、『建築工事監理指針』の改定作業に、技術委員会が対応した。

#### (6) 日本建築学会『屋根工事標準仕様書 JASS12』改定への対応

(一社)日本建築学会の「屋根工事標準仕様書 JASS12」の改定作業に技術委員会が対応した。

#### (7) 平板ぶき屋根の耐火構造における垂木の耐火被覆に関する検討

横葺き屋根等野地板を使用する屋根での耐火構造においては、垂木をケイ酸カルシウム板で耐火被覆する仕様が一般的であるが、ロックウール被覆を使用したい等の要望があり、国交省の建築基準整備促進事業の 2018(H30)年度採択事業の「F14、不燃材料等に関する大臣認定仕様の基準化の検討」(防火材料・防耐火構造等 WG)で引き続き「告示化」の検討を行っている。

これと併せて、当協会が実施した耐火試験結果をもとに、ロックウール被覆仕様について「新たな試験を要しない性能評価」を受けることで、既存の認定仕様を含めることが可能となった。これについては、機関誌 1 月号に解説記事を掲載した。

(8) 金属屋根・外壁に係る技術資料の整備

技術委員会で新たな技術資料の発行に向けて、準備を進めている。

(9) 技術委員会・技術分科会 合同研修会の実施

技術委員会・技術分科会の合同研修会を以下のとおり実施した。

# 2018年11月30日(金)～12月1日(土)

# 旭化成建材・ネオマフォーム製造工場の視察と意見交換

7. 断熱事業

(1) 運 営

事業の円滑な執行を図るため、断熱亜鉛鉄板委員会内部に幹事会、技術分科会を設け活動を行っている。幹事会、分科会等の開催経過は、以下の通り。

表9 幹事会・分科会等の開催状況

	総会	幹事会	分科会	説明会、工場審査
4月		12日	24日	
5月	9日		24日	
6月		27日	21日	
7月			26日	
8月			22日	3日、10日、17日、24日、31日
9月		5日	27日	7日、14日
10月			26日	17日、18日、30日
11月		15日	22日	1日、2日、7日、10日
12月			14日	13日
1月			19日	
2月		5日	28日	
3月			28日	

今年度中の委員会・会員の異動状況は以下の通り。

表10 委員会・会員異動状況

会員区分	期首	増加	減少	3月末
正会員	88	0	0	88
賛助会員	10	0	0	10
合計	98	0	0	98

(2) 耐火構造認定の取得

3件の仕様について屋根30分耐火構造の認定取得に向けた取り組みを行った。

(一財)ベターリビングに於いて2018年12月に性能評価試験を行ない、下記の仕様は合格したが、仕様は非加熱面で10秒を超える継続発炎があり不合格となった。また、試験を伴わない認定として仕様を申請した。 、 仕様の認定番号の付与は2019年度6月頃の見込みである。



H1750 S:最大梁間 4,000 mm、裏打ち材あり及びなし

ポリエチレンフォームを含め裏打ち材を増やし、フェライト系ステンレス鋼板含む。ガラス繊維シートとフォームプラスチック裏張では認定取得済。

H1733W (GW10 kg品):最大梁間 4,500 mm、裏打ち材あり及びなし

固定・スライド断熱金具仕様、裏打ち材多種、フェライト系ステンレス鋼板含む。H1733 シングル折板では認定取得済「FP030RF-1877(1)(2)」。

試験を伴わない認定・H1750W (GW16 kg品):最大梁間 5,000 mm、裏打ち材(追加)あり及びなし仕様  
既認定の「FP030RF-1879(1)~(4)」にスライド式断熱金具・フェライト系ステンレス鋼板を追加。

### (3) 認定書発行管理体制の整備

大臣認定書の発行管理について、以下のシステム開発等を行った。

大臣認定書発行管理システムの開発と運用

2009年4月から電子媒体で運用している発行管理システムに、新たに取得した3認定を加え、材料と構造の合計25認定で運用している。追加した3認定は、いずれも二重折板(断熱金具は固定式とスライド式が利用可能、フェライト系ステンレス鋼板を追加)、認定番号は以下の通り。

\* H1750W (GW10 kg品): FP030RF-1799-1 (1)~(4)

\* H0930-1 山 W (GW10 kg品): FP030RF-1927 (1)~(4)

\* H0930-2 山 W (GW10 kg品): FP030RF-1928 (1)~(4)

認定書の発行業務

委員会の発行する認定書は、従来認定(5件)と二重折板認定(7件)を各々合本として発行し、追加認定(13件)は認定ごと個々に発行している。本年度の認定書発行数は、138通である。

### (4) 広報活動

本年度は、主に会員企業を対象に認定内容ならびに大臣認定書(写し)の発行管理体制の周知に努めた。また、日本金属屋根協会の機関誌、並びに建築専門誌等を通じた広報活動も行った。

認定内容の説明会ならびにID取得講習会

会員企業を対象に、二重折板認定・従来認定・追加認定の内容について説明会を実施した。また同時にID取得のための認定書発行システムおよび発行手続きの講習会を全国7会場で開催した。講師は技術分科会委員が担当した。

表 11 講習会実施経過

会場	開催日	出席者数	ID取得者数(内数)
札幌	2018年8月3日(金)	4名	0名
仙台	" 8月10日(金)	5名	3名
東京	" 8月17日(金)	17名	4名
名古屋	" 8月24日(金)	7名	3名
大阪	" 8月31日(金)	16名	7名
福岡	" 9月7日(金)	10名	1名
追加東京	" 9月14日(金)	26名	6名
合計		85名	24名

#### ホームページの運営

2009年1月から、協会ホームページと一体化して運営している。今期はホームページのリニューアルを実施した。PC、タブレット、スマホでも閲覧可能とし、2019年4月1日から運用開始している。内容を以下の3カテゴリーに大別した。

- # 防火・耐火認定: 認定仕様による認定番号検索、防火材料・耐火構造認定一覧
- # 各種性能: 快適空間へのいざない、PDF資料
- # NEWS: 最新情報・予定、講習会・説明会案内

#### 日経アーキテクチャ(日経BP社)への広告掲載

同誌2018年10月号・別冊特集『美しい屋根2018』に委員会が取得している大臣認定一覧と認定書(写し)の発行管理を紹介した。

#### (5) 品質の維持・向上

認定製品の品質・性能等を自主的に確認するため、以下の事業を実施した。

#### 会員工場の技術審査

会員を対象に、委員会の管理する大臣認定に係る保有設備、社内管理状況、断熱材張り等に関する審査を9社に対し10月17日～12月13日の間で実施した。9社すべてが審査に合格した。今年度で会員工場の技術審査が一巡した。

#### (6) その他

「防耐火関連の構造方法等の大臣認定材料・構造等に関する製造実績調査」について(一社)建築性能基準推進協会から、建築行政の適切な情報整備に資するためとして平成30年度の製造実績調査依頼があった。これについて委員会は、面積や重量等の製造実績を把握していないため、認定書の発行件数を報告することで対応した。

#### 他団体との交流

委員会は、断熱亜鉛鉄板に関する各種情報を得ることを目的に、主に次の団体と交流している。

- ・ 防火材料等関係団体協議会
- ・ 防火工法推進協議会

### 8. 広報事業

#### (1) 機関誌「金属屋根 施工と管理」の発行

機関誌の発行に際しては、定期的に応報委員会を開催し、その充実に努めている。機関誌は会員のほか官公庁・設計事務所・総合工事業者等にも送付している。年度の特集記事は次の通りである。

表 12 機関誌特集記事

号	タイトル	執筆者等
'17年4月号	防水材料による金属屋根改修	佐藤孝一
5月号	金属サイディング新築外壁施工マニュアル	金属サイディング工業会
6月号	「角波」の送風散水試験 試験結果報告	技術委員会
7-8月号	LLM2017 への質問とその回答 Ver2	技術委員会
9月号	続・変わりゆく住宅屋根	市川裕之
10月号	屋根耐火 30分耐火構造認定	断熱亜鉛鉄板委員会
11月号	台風21号に伴う広域強風災害と金属屋根壁の耐風圧設計	技術委員会
12月号	台風21号に伴う強風による建築物等被害現地調査報告(速報)	国総研・建築研究所
'18年1月号	耐火構造 屋根における鋼製小屋組の被覆に関する検討	技術委員会・建材試験センター
2月号	「集成材梁+ タイトフレーム」強度試験報告	技術委員会
3月号	木質下地(集成材) 折板屋根のディテール	技術委員会

(2) ホームページの運営

協会ホームページは、2002年2月1日より正式に公開している。ほぼ2ヶ月に1回程度のペースで見直しを行った。2018年度中に29万強のアクセスがあった。

表 13 ホームページ

主な内容と更新状況	新たにアップしたページ
トップページ...掲載写真を随時更新 金属の屋根と外壁を知る...内容と構成の更新 環境配慮型屋根...従来通り 屋根と外壁のかたち...内容と構成の更新 屋根と外壁の素材...従来通り 設計・維持管理...内容更新 0.4mmの超軽量テクノロジー...従来通り 屋根ふき材の構造計算...従来通り テクニカルレポート...6件の技術レポートを追加 スレート屋根改修のご提案...従来通り 講習会・試験のお知らせ...随時見直し 金属屋根工事技士制度の紹介...従来通り 工事管理報告書...従来通り 出版物案内...紹介図書の追加、修正。 統計...内容更新 施工写真集...掲載写真を追加 用語集...従来通り あの屋根・この屋根...従来通り 銅屋根クロニクル...6件の記事を追加 会員名簿...随時見直し	「金属の屋根と外壁を知る」のページの内容と構成を全面的に更新した。

主な内容と更新状況	新たにアップしたページ
21 協会の情報公開・・・平成 30 年度の内容に更新	

表 14 アクセス数(14/2～29/12)

	アクセス数
14/2～30/3	2,256,630
30/4～31/3	290,733
計	2,547,363

### (3) 建築系工業高校への広報活動

2007 年 9 月号より金属屋根に対する理解促進等を図るため、全国の建築系学科を有する工業高校への機関誌の配布を行っている。

### (4) 書籍等の頒布

以下の書籍等について会員及び一般向けに頒布を行った。

初めて学ぶ・もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017 鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSR2014 計算ソフト「屋根を調べる 2015」 金属屋根の施工と管理 - 改訂 4 版 - 鋼板製外壁構法標準 SSW2011 鋼板製屋根構法標準 SSR2007 素材からみる金属屋根と外壁 改訂・鋼板屋根構法マニュアル 風と金属屋根 - 改訂版 - 屋根改修工事の手引き

## 9. その他

### (1) 国土交通大臣顕彰「優秀施工者」(建設マスター)受彰

建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事している方の中から、特に優秀な技能、技術を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をしている方を、国土交通大臣が顕彰する、2018 年度優秀施工者に 3 氏が選ばれた。当会としての受彰者は 62 名となった。また、ジュニアマスターは 8 名となった。

#### 【建設マスター】

阿部龍一(北晃板金(有) 北海道) 武藤直也(株中央折版工業 岐阜)

山本勝一(有山本板金工業所 熊本県)

#### 【ジュニアマスター】

園田貴大(株園田板金 宮崎) 畑 智之(株大畑 静岡)

以 上